

シーニックバイウェイフォーラム2007の開催

- 日 時：平成19年6月2日（土）、3日（日）
- 場 所：第1会場：生活支援創造施設「コンカリーニョ」/ 第2会場：レンガの館ホール
- 主 催：シーニックバイウェイ北海道推進協議会
共 催：有限責任中間法人シーニックバイウェイ支援センター、社団法人北海道開発技術センター
- 参加者：約250名
- 開催概要：
- 〔2日〕プログラム①「ルート認定証授与式」
- ・ルート認定証授与式「函館・大沼噴火湾ルート」
「釧路湿原・阿寒摩周・シーニックバイウェイ」
- プログラム②「シーニックセッション2007」
- ・ルート活動セッション：指定6ルート、候補3ルートの活動団体による活動報告
 - ・セッション総括・講演（小林 英嗣 北海道大学教授）
- プログラム③「地域資源の保全と活用に関する調査研究発表会」
- ・平成18年度シーニック活動団体が実施した調査研究事業の発表・意見交換
観光分野__活動団体7事例、大学1事例を発表（講評 佐藤 誠 北海道大学教授）
景観・地域づくり分野__活動団体6事例、大学2事例 を発表
（講評 梅田安治 農村空間研究所所長）
- 〔3日〕全道シーニック会議
- ・指定6ルート、候補3ルートの代表者により、シーニックバイウェイ北海道の現状と今後の展望について議論。
- ※サイドプログラム「シーニックパネルセッション2007」
- ・道内のシーニックバイウェイ全ルートが展示で地域の魅力や活動の内容を紹介する他、推進協議会構成機関 や支援センター、シーニックフォト倶楽部の入選作品を展示。
- ※コミュニティFM三角山放送局にて15:00～16:30「シーニックバイウェイフォーラム2007」を放送
- ・6つの指定ルート、3つの候補ルートの概要を紹介。



平成 19 年度 集中活動の取り組み（案）

1. 集中活動の主旨

集中活動は、ルートにおいて様々な活動や事業を集中的に実施することにより、活動団体の連携意識を醸成すること、シーニックバイウェイ北海道及びルートを内外に広くアピールすること、一年を通じた北海道観光の創造を目的とする。平成 19 年度においては、各ルートがそれぞれの地域の活動状況や固有の地域資源等を考慮して、独自の期間とテーマを設定し実施することとする。

〔集中活動のねらい〕

- ・集中的な広報等により、シーニックバイウェイ北海道とルートを内外に広くアピールする。
- ・ルートにおける共通・連携活動等により、活動意識の向上と団体間の連帯感の醸成を図る。
- ・活動団体と関係行政機関の連携等により、ルート運営のための体制づくりを推進する。
- ・企業と連携したツアーやルートプロモーション等により、地域の活性化を推進する。
- ・集中活動における配慮事項への取組等により、活動や地域に対する誇りの醸成を図る。
- ・道の駅、北海道遺産、わが村は美しく-北海道等、他施策との連携を促進する。

2. 集中活動において配慮すべき事項

北海道の持っている固有の特性を最大限発揮し、シーニックバイウェイ北海道の全道的推進に資するため、集中活動の実施においては、以下の事項に配慮する。

①『地域文化の発掘・創出』

美しい景観づくりのための活動とともに、それぞれの地域に固有の文化や歴史、生活を発掘・創出するような活動や事業を展開する

②『地域の食を活かした魅力の創出』

北海道の豊かな自然から生み出される海の幸や山の幸、農産物など、“食”をテーマとした活動・事業を展開する

③『雪や寒さ資源を活用した新しい冬期観光の創出』

北海道らしい美しい雪景色や、冬ならではの気象現象などを最大限活用し、北海道の新しい冬期観光づくりのための活動・事業を展開する

④『シーニックバイウェイエコツーリングの推進など地球環境への配慮』

北海道の限りある資源及び、地球環境全体への影響を考慮し、エコツーリングの推進や、環境に配慮した活動・事業を展開する

◆ テーマ別検討会の設置について（案）

【目的】

シーニックバイウェイ北海道推進の基本方針で定める全道的推進の基本方針について、推進を図ることを目的として設置。全道的推進を図るための具体的方策の検討や、実験的・先導的取組の創出を目指す。

【テーマ】

当面は、環境検討会（CO₂削減）を設置し、順次検討テーマ（外国人対応等）を増やすこととする。

【構成】

有識者、各テーマに関連の深い推進協議会構成機関等により構成。
（テーマや検討状況により柔軟に対応していく）

【事務局】

シーニックバイウェイ北海道推進協議会事務局